

インクルーシブ教育システムの推進 ー地域実践研究の取組と成果からー

研究概要説明	星 祐子	(国立特別支援教育総合研究所)
研究報告 1	久保山茂樹	(国立特別支援教育総合研究所)
	西 聡 氏	(指定研究協力地域：埼玉県教育委員会)
	坂口 勝信 氏	(埼玉県教育委員会派遣地域実践研究員)
研究報告 2	定岡 孝治	(国立特別支援教育総合研究所)
	前田 貴子 氏	(指定研究協力地域：静岡県教育委員会)
	遠藤麻衣子 氏	(静岡県教育委員会派遣地域実践研究員)
指定討論	原 広治 氏	(島根大学教授：地域実践研究アドバイザー)
司会進行	深草 瑞世	(国立特別支援教育総合研究所)

まず、星上席総括研究員より地域実践研究の全体像及び今回取り上げた二つの研究テーマの概要についての説明がなされた。

次いで研究報告 1 及び研究報告 2 について報告があった。

研究報告 1 では、久保山総括研究員より「インクルーシブ教育システム構築に向けた研修に関する研究」について、目指す学校像を明確にしての研修、研修の考え方、指定研究協力地域 6 県市での研究成果の活用等について報告がなされた。次いで、指定研究協力地域である埼玉県教育委員会の西氏より埼玉県における「インクルーシブ教育システム推進に向けた研修プログラム」の開発について、「研修の現状と課題把握のためのチェックリスト」の作成によって何をすればよいかの具合的に整理され、視点の向け方が分かったとの報告がなされた。そして、地域実践研究員の坂口氏より、「インクルーシブ教育システム構築に向けた研修プログラム～校長・特別支援教育コーディネーターを対象として～」の具体と今後の研修プログラムの普及・促進について報告がなされた。

研究報告 2 では、定岡総括研究員より「交流及び共同学習の推進に関する研究」について、全国調査の結果と静岡県の比較、交流及び共同学習 Q&A21 を研究所の Web サイトに載せたこと、静岡や相模原市の現地調査をまとめたことの概要説明がなされた。次いで、指定研究協力地域である静岡県教育委員会の前田氏より「交流籍を活用した交流及び共同学習～静岡県の取組～」についての報告があり、静岡県内における交流籍の仕組み、交流籍の目指すもの、今後の全県実施に向けた取組等について報告がなされた。そして、地域実践研究員の遠藤氏より、「静岡県における居住地校交流の推進に関する研究」について、居住地校交流を推進していくための具体や今後の課題等について報告がされた。(以上、要項 P13、プレゼンテーション資料 P73-106 参照)

<参加者との質疑応答>

参加者：自分の娘は小学校の時、特別支援学級に在籍していた。先日、同窓会があり、通常の学級に在籍していた友達から沢山、声をかけられ、とてもうれしく感じている。このような障害のある児童生徒と障害のない児童生徒の交流について研究されていることに感謝したい。

参加者：交流及び共同学習を実施する時に、障害のない児童生徒の変化について把握の仕方や指標を知りたい。

遠藤氏：交流及び共同学習の調査の際、特別支援学級在籍の児童が通常の学級において教科の学習を行う場面を見せて頂いた。通常の学級の担任が、活動前と活動後の学級の児童の様子を把握し、その変化の様子を学級全体に伝えるという実践であった。児童生徒の変化を把握する上で参考になると感じた。

<指定討論>

地域実践研究アドバイザーの原氏より、以下について述べられた。地域実践研究はインクルーシブ教育システムの構築を推進する際に、地域において解決する必要のある課題に対して、特総研のリソースを活用するという新しいスタイルの貴重な研究である。今回の研究成果はある地域の課題解決に留まらず、汎化できるものであり、各地域に合わせて活用することが求められる。また、このような理論と実践の往還という研究手法においては、地域が主体的に、そして能動的に活動する中で研究を深めていくことが大切である。

<まとめ>

星上席総括研究員より、以下のまとめがあった。地域実践研究は、地域の課題解決に向け、研究所の研究員と地域実践研究員が協同して取り組む研究であり、研究成果をダイレクトに地域に還元できる良さがある。本研究で得た知見や成果は、各地域の実情と課題に応じて、活用していただき、その実践交流ができれば良いと考えている。次年度からは、新たな4課題の研究に14地域と協同して取り組んでいく予定である。